

## 地方創生に関する意見募集結果

地方創生に向けた「徳島県版総合戦略」を策定するにあたり意見募集を行った結果、26名の方から次の113件のご意見をいただきました。いただきましたご意見は総合戦略策定の参考とさせていただきます。多数のご応募ありがとうございます。

応募期間：平成27年2月2日（月）から平成27年2月16日（月）

### 1. 安定した雇用の創出

連番	意見要旨
1	<p>「ロボットリハビリテーション先進県である徳島県の地方創生戦略」</p> <p>徳島県はロボットリハビリテーションの先進県である。昨年10月には、第1回徳島ロボットリハビリテーション研究会が開催され、全国各地から医師、医療従事者、研究者が集い、ロボットリハビリテーションの現状と未来の課題について熱い討論が行われた。また、現在徳島県では、ロボットリハビリテーションを実施している医療機関が4施設存在する。</p> <p>私はこの事実をもとに、徳島県の地方創生戦略として、再生医療リハビリテーションやロボットリハビリテーションなどの先進的リハビリテーションを推進する場、「リハビリテーションバレイ Rehabilitation Valley」構想を提言する。リハビリテーションバレイには、患者はもとより、医療従事者、その医療を支える様々な職種の方々を呼び込むことが期待できる。さらに、リハビリテーションバレイでは、雇用確保、産業創成、医療における優れた人材養成の場となり、徳島県における地方創生を実現できると確信している。</p> <p>我が国は今、超高齢社会、少子高齢化社会の真ただ中である。2015年、団塊の世代が前期高齢者となった（2015年問題）。2025年には、その世代が後期高齢者となる（2025年問題）。さらに、2030年は、生産年齢人口の激減を迎える（2030年問題）。高齢者の激増と労働者人口の激減は、高齢者の医療や介護における人、物、金の不足をもたらす。徳島県は他の都道府県に比べ、前述の諸問題を先に経験している。これら諸問題に対する解決策の立案とその実践は、他の都道府県にとっては好例かつ模範となるであろう。リハビリテーションバレイは、高齢者における運動機能を改善する場となり、高齢者の日常生活活動のみならず生命の質を改善する場となる。</p> <p>再生医療は、人工多能性幹細胞（iPS）や未分化間葉系幹細胞（MSC）を用いて失われた組織や器官の形態と機能を再生する。リハビリテーションは、それらの機能回復を促進する重要な治療である。特に、骨や骨格筋などの運動器の再生医療の分野では、それらの成熟を促進するためにはリハビリテーション、特に運動療法が不可欠である。ロボットリハビリテーションは、再生医療リハビリテーションにおける中心的役割を果たすことが期待されている。</p> <p>徳島県では、糖尿病の病態解明と治療開発についての臨床および基礎研究が活発に行われている。糖尿病の治療や予防のためには、リハビリテーション治療が不可欠であり、例えば、血糖値改善のためには運動療法、合併症である糖尿病性壊疽に対しては義肢装具療法といったリハビリテーションが提供されている。ロボットリハビリテーションは、安全かつ苦痛なく運動療法を実施することができ、糖尿病の重症化抑制、合併症の予防に寄与する。</p> <p>最後に、医療機関を中心に人が集まり、大きな街ができた好例を提示する。米国ミネソタ州ロチェスター市には、全米のみならず世界各地から患者、医師そして研究者が集まるメイヨークリニックが所在する。1846年、ウィリアム・メイヨーとチャールズ・メイヨーの兄弟がクリニック（診療所）を僻地に立ち上げた。本クリニックが優れた医療を提供することで評価を高め、クリニックは飛躍的に発展することになった。そして、遂に、メイヨー医科大学を擁するまでに至った。当時、メイヨークリニック周辺は殺風景な状態であったが、現在は、本クリニックを中心とした都市が形成されている。医療機関が都市づくりに貢献したのである。</p> <p>以上、徳島県における地方創生を実現するための方策として、先進的リハビリテーションを推進するリハビリテーションバレイ構想を提言する。</p>
2	<p>私が思う地域活性とは、外貨（県外からの観光客等のお金を落とさせること）を稼ぐこと。また、徳島といっても広く、徳島市や阿南市など栄えているところは、正直何とでもなると思う。しかし、阿南より南に行けば、寂しい地域になってしまう。このエリアを活性化することが、すごく大事だと考える。</p> <p>県外だが室戸岬へ向かう、また高知県から徳島へ向かうというような人の流れを作るために、その間の要所要所にて、人を呼び込むような仕組み作りが必要だと思う。目玉となる複合施設や水族館などが、点在していると人の流れが自ずとできてくるはず。</p> <p>例えば、牟岐の皆さんは何とか観光客を呼び込もうと大変努力されている。しかし、限界がある。人の流れが地方へ流れるようになれば、お金を落とさせる努力は惜しまないはず。各地方（田舎）には、おいしい「食」も「魅力」もたくさんある。これらを最大限に活用できるよう、きっかけづくりとして地方創生を行ってほしい。</p>

連番	意見要旨
3	<p>1. 徳島ラーメンのラーメン屋だけの案内MAPの作成 何処にどのような特徴の店（比較的あっさり味とか・ボリュームがあるとか）があるのか解ると良いと思う。また、各店に小盛りがあると食べ歩きができ味の違いが楽しめる。</p> <p>2. フィッシュカツについて 少し改良を加えて、バーガー・サンドイッチなどで県外の人が集まる場所（徳島駅・徳島空港・フェリーターミナル等）で販売してはどうか。</p> <p>3. 徳島県産の多種多様な肉・魚・農作物を集めて1,000円～1,500円位の定食メニューを作る これも人が集まる場所で提供してはどうか（使用する器も徳島県産なら申し分無し。予算面で難しいと思うが）。 （移住のパンフレットを見てこのようなものがあればひとつの武器になると思った。但し、2. 3. のメニューの作成は、まがい物等を防ぐ為必ず県で監修を行う。県内飲食店がこの料理を提供する場合は、県が許可の上メニューを無償提供。）</p> <p>4. せっかく来てくれた方により楽しんでもらうため、徳島駅発の日帰りツアーを数種類用意（鳴門方面、祖谷方面、海部方面、徳島市内等）</p> <p>5. 空港・フェリー等へのアクセス強化 バス、タクシーだけではなく出来れば鉄道。</p> <p>県を中心に各市町村、農協・漁協、観光・運輸関係等が集まったチーム徳島でないと達成は難しく、またすぐに目に見えた効果は無いと思う。ロコミは時間はかかるがとてつもないアピールとなる。出来れば、阿波おどりの時期までに何点か実行に移せると良いのではないか。</p>
4	<p>「教育格差をなくす」 進学塾のない地域に住む保護者は、遠方まで塾に通わせるか、都市部に移り住むか等、子どもの教育環境に不安を感じている。 ICTやタブレットを活用して、都市部の講師の講義を双方向型で受けられるようにすることで、都市部との教育格差をなくす。</p>
5	<p>「観光について」 宿泊者数がダントツで全国最下位なのは、本県に魅力がないのではなくPR不足に原因があると思う。これからは退職前後の団塊世代をターゲットとしたPRの充実が必要である。 また、宿泊者数を増やすためには、四国内、近畿圏等の近場だけではなく、首都圏等の遠方からの観光客を増やす施策が必要である。</p>
6	<p>「日本を代表する観光地に／眉山山頂に屋台村と五右衛門風呂を」 徳島の武器は美しい自然であり、国内外の観光客を増やすためには、自然を活かした日本の魅力を売り出す必要がある。そこで、有名な専門家の監修を経て、「農村・忍者村：ジャパンアウトドアテマパーク」をつくってはどうか。自然の中で七輪、囲炉裏を中心にした焚火、和太鼓、人形浄瑠璃、五右衛門風呂、藍染ジャパンプルー温泉、鳴門金時の焼き芋、阿波尾鶏（あわおどり）の炭火焼き、鮎の塩焼き、半田流しそうめん、徳島ラーメン、鳴るちゆるうどんアンドたらいうどん、でこまわし、はんごろし（おはぎ）、忍者のパフォーマンス、八十八ヶ所とリンクした修行、夜には阿波おどり・・・徳島を活かせる点は多々ある。もちろん電力はバイオマスや太陽光、小型水力発電を利用するなど、自然を活かした遊び心のある観光地を是非つくってほしい。 県外から来た観光客が、徳島市内に泊まっても時間が持たないという声をよく聞く。県民として情けない。眉山にどこか懐かしい明治時代のポストモダン風の屋台村をつくり、「人の会話が聞えてくるようなやわらかいあかり」をつくろう。お接待を土台に、徳島の野菜、地鶏、郷土料理、名物料理、海賊料理などを夜景を見ながら味わい、外国人にも評判の五右衛門風呂で癒し、阿波おどりで盛り上がり、徳島経済を押し上げてもらおう。徳島の魅力を発揮してほしい。 おもてなし日本における、元祖お接待を見せてやろう。</p>
7	<p>「高齢者支援事業イノベーション」 高齢者が要介護状態となっても尊厳をもって住み慣れた地域で生活できる地域包括支援体制の構築が急務となっており、そのためには「いつまでも美味しく食べられる」栄養ケアが基点となった医療／介護体制の整備が重要。 各病院・施設等への供給以外に在宅介護療養者の方へ物性配慮、栄養バランスのとれた簡便且つ継続利用可能な取扱い食品等の流通推進を、栄養指導支援システムによる高齢者支援事業「栄養ケア&amp;見守りサービス」という新産業による地域、雇用活性化を提案する。</p> <p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドラッグストア等で市販されていない介護・病院施設供給食品（安心・安全）を供給し雇用活性につなげる。</li> <li>・安心・安全と調理方法の提案などを提供する管理栄養士の新しいスタイル（在宅訪問栄養管理士）により、県内大学出身者の雇用活性につなげるとともに、高齢者の見守り事業を行う。</li> <li>・ケアステーションを運営し、様々なサービスを企画することで雇用活性につなげるとともに、見守り事業を行う。</li> <li>・サービス利用者にとっては、栄養療法による経済的効果（治療効果の向上、薬剤費削減、医療材料費削減、医療保険・介護保険削減）と介助者の負担減につながる。</li> </ul>

連番	意見要旨
8	<p>「地域振興運動の提唱」 江戸時代には、各藩の奨励策によって、全国各地に地域の産業が興った。「孫子の兵法」は、「彼を知り、己を知れば、百戦してあやうからず」と名言を残している。横浜国立大学名誉教授の宮脇昭は、樹木育成には、その土地に適した植生を提唱している。</p> <p>地方創生の取り組みに当たっては、まずその地域（＝市町村）の、①ふるさとの歴史を学習して地域の特性を知り、②地場産業に的をあててどのような産業が過去にあったか掘り起し、③各市町村の地場産業を指定して、その産業を④援助・支援・補助・育成する。</p> <p>三好市の“うちわ”、“鯉のぼり”、“カンドリ舟”、美馬市の“番傘”、“漆製品”等々徳島県の各地域には特産品があった。各市町村は地域の特産品を選定して発表する。次に、人材を育成して職人を育てる。地方創生も先人の知恵を参考にすべきである。幕藩体制を今一度勉強するののも一つの方策である。</p>
9	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」 徳島は歴史・文化が他県より少なく、また県民の理解も低いため、阿波おどりや藍染め以外の文化創造と歴史的ヒーローの発掘や掘り起こし。史跡のより一層の発掘、復元、整備、碑文や案内板、銅像の設置。</p>
10	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」 各自治体で気軽に利用できるスポーツ施設は充実しているが、国際大会や公式戦が実施できるスポーツ施設が徳島は少ない。プロ野球の公式戦が出来る野球場の整備、年間通していつでも開催できるサッカー専用のスタジアム、人気のフィギュアやアイスホッケーにも対応の四国初の本格スケートリンク場の整備、公式戦対応の屋内ブルームの整備。これによるオリンピック向け西日本版ナショナルスポーツセンターの誘致。</p>
11	<p>「魅力ある元気な地域をつくるためにはどうすればいいか」 イメージの向上、味の向上、人間力の向上 空港、駅、観光地、レストラン等に藍染めの大きなタピストリーを掛け大谷焼の大甕に花を掛け、徳島のイメージを作る。藍染めのテーブルセンターと大谷焼の花瓶に花を生ける。レストラン等では、大谷焼の食器を使い、店員は藍染めのエプロンやシャツを着てサービスする。昔、「藍色の国徳島」とかいうキャッチフレーズがありました。竹のフォークを使って和菓子を出す、できるだけ県産の物を数多く県外の人にアピール。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島には豊かな食材があるのにそれが生かされていない。専門家の意見を聞き、徳島の味を開発し、遠くからでも来たい、並んででも食べたい、アツアツの魚の天ぷら丼、鳴門の鯛めし、押し寿司、阿南のタケノコ料理などを空港、駅、観光地、レストラン、産直市にからめていく。</li> <li>・かつてハウステンボス、ユバーサルスタジオも経営不振であったが、経営者が変わって今は大変な人気のようなのである。その人気の一例に、それぞれの配置で個人が創意工夫し、レベルを高め、例えばゴミ拾いする人が如何に美しく、きれいにゴミを集めるか指導教育し、見る人に楽しいと感じさせるパフォーマンスにした。徳島を一つのアミューズメントの場所に見立て官学民が一体となって、ひとりひとりが自分たちの地域は自分たちで楽しみながら守り育てていくという意識の向上、県は県民をやる気にさせていく。</li> <li>・何でもあつてよ徳島！人も、物も、自然も！</li> </ul>
12	<p>「全国一の光ファイバー網を生かしたアピールを展開し、徳島ならではの特色ある人材を育成する」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生の教育現場へ、一人一台のタブレット端末の採用。</li> <li>・高校生に「ITパスポート」など資格取得を推奨し、モラル教育を充実化。</li> <li>・徳島の新たな特色である優れた通信環境を幼少期から教育現場で体感し、正しい活用方法の理解などを通じて、将来のデジタル・デバイドの抑制を図る。</li> <li>・徳島で情報技術に優れた人材が安定的に育成できれば、昨今注目を集めているサテライト・オフィスなどの誘致に弾みがつく上、地元人材の雇用の場としても生きるなど、産学官民が有機的に機能した徳島の特色あふれる「地方創生」となる。</li> </ul>

連番	意見要旨
13	<p>「あわの道しるべ推進プロジェクト」の提案（観光交流・交通安全・防災等に資する） （現状と課題） 大阪府内など関西圏の道路では幹線道を中心にほとんどの交差点において「地点標識」が信号柱に添加されているが、徳島県などの地方都市ではそういった地点標識は皆無であり、四国では高松市や松山市中心部の一部に整備されているに過ぎない。地方都市では道路網が複雑でなく、かつ通行する車両は在住者が大半を占めており、都市部に比べて地点標識の必要性が乏しいためだと推察される。</p> <p>しかしながら、徳島県などの地方都市にこそ、お遍路や観光等で訪れる県外客あるいは県外から移住された方等への「道しるべ」として地点標識は重要な意味を持ち、影ながら存在意義のある非常に重要なインフラである。</p> <p>近年、ナビシステムが発達しているが、「地名」も大切な地域の財産である。ナビ案内では自分がどこを走行しているかが実感できず、地域固有の地名に触れるきっかけがない。したがって、地名も旅行も記憶に焼き付かないものとなっているのではないか。</p> <p>また、四国地方整備局監修による道路標識設置要領では地点標識の文字サイズが共架タイプ20cmとなっており、関西圏での30cmに比べて文字が小さく、交差点手前からの判別がほぼ不可能となっている。</p> <p>（提案事業） 旅行者等が目的地まで迷わず到着できるよう主要な交差点の信号柱等に分かりやすい大きさの「地点（交差点名）標識」を設置する。 （目標：期待される効果） 県内の主要な交差点に「地点標識」が設置されると、旅行者等県内外の方への道案内や事故防止、災害時等における地点確認などにも活用が期待される。</p> <p>観光地図やパンフレットにも地点名が記載され、気軽に旅行等が楽しめる。特に、近畿地方をはじめとする県外から徳島に人を呼び込む「おもてなし」として必要なインフラである。旅行者にとっては迷いながら到着した目的地へは次回も来たいとはあまり思わないであろう。しかし、地点標識があつて迷わず到着できれば、また行こうかなという気持ちにつながると思う。かつ、地名にも個性があり、地域にとっての重要な財産でもある。個性的な地名は人々の記憶に強く残り、思い出の「道しるべ」となる。県民が地域の地名に誇りと愛着を持ち、魅力を発信するきっかけにも成り得るものではないか。</p> <p>また、災害時等では地理に不慣れな関係者への目的地までの案内や場所確認が非常に容易となる。</p> <p>このため、県内の幹線道路において、まずは東部圏域からこの地点標識の重要性を発信し、県内にとどまらず四国全域の国・県・市町村道に拡げれば、例えば四国全体の観光サービス向上につながり、人を徳島や四国に呼び込む「おもてなし」の隠れたツールになると考える。</p>
14	<p>徳島県が山形県、山梨県、和歌山県を見習って「果樹王国・とくしま」を目指す。 ・やまもも・みかん・ぶどう・柿・桃・梨等の栽培に重点を置く。</p> <p>徳島県が「花き・園芸ランドとくしま」を推進する。 ・徳島県が「関西の花き栽培供給基地」になる。</p>
15	<p>徳島県が島根県雲南市の地方創生の取り組みを見習う。 徳島県が「第四次産業革命」を起こす。 ・「クリエイティブ産業」、「デジタル・コンテンツ産業」、「アート・デザイン産業」 徳島県が主体となって、城西高校・徳島科学技術高校・徳島商業高校による「農工商連携高校教育」を推進する。</p>
16	<p>徳島県が「徳島の農業力」の強化を行う。 ・徳島県西部圏域の「遊休農地」や「耕作放棄地」を耕して、トウモロコシ、大麦、小麦、大豆、そば等の穀物作物類を栽培して「徳島の穀倉地帯」を作る。 ・「農家民宿」を中心とする「アグリ・ツーリズム」を推進する。 ・「農業基盤整備」を推進する。 ・「農業の大型化」、「農業の大規模化」、「農業の近代化」、「農業のICT化」を推進する。 ・徳島大学生物資源産業学部「農業資源生産産業コース」の開設。</p>

連番	意見要旨
17	<p>徳島県が「徳島の漁業力」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「徳島漁業塾」の開校を行う。</li> <li>・「海の雇用事業」の推進を行う。→「潜水士」又は「海女」の人材確保</li> <li>・「栽培漁業」や「養殖漁業」の推進</li> <li>・「ブランドさかな」（「うず華鯛」、「すだち北灘はまち」等）の推進を行う。</li> <li>・「漁家民宿」を中心とする「ブルー・ツーリズム」の推進を行う。</li> <li>・徳島大学の生物資源産業学部「海洋生物資源生産コース」を開設する。</li> </ul>
18	<p>徳島県が「地方創生」の取り組みの一環として、徳島県を訪れる海外の観光客やビジネス客を増やすために「公衆用無線無料LAN受信環境」の整備促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島阿波おどり空港、徳島県内のJRの各駅、徳島自動車道の「上板SA」・「吉野川SA」・「松茂PA」等</li> </ul>
19	<p>徳島県が格安航空会社のバニラ・エア、ピーチによる徳島＝成田線の新規の航空路線の開設で北米地域からのビジネス客や観光客の誘致促進を図る。</p>
20	<p>徳島県が県外の観光客を対象に「プレミアム付き観光宿泊券」や「プレミアム付き観光おみやげ券」を発行する。</p>
21	<p>徳島県が株式会社ブランド総合研究所の協力を得て徳島県のブランド力、魅力度、認知度、地域資源を高める。</p>
22	<p>徳島県が「2019年ラグビーワールドカップ日本大会」や「2020年夏季オリンピック東京大会」の開催を視野に入れて「徳島のスポーツ力」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県が「2019年ラグビーワールドカップ日本大会」の開催において、ウェールズ代表チーム、ニュージーランド代表チームの国内合宿キャンプ地になる。</li> <li>・徳島県が「ラグビー日本トップリーグ」に所属するパナソニック、ヤマハ発動機、東芝、トヨタ自動車、近鉄の合宿キャンプ地になる。</li> <li>・つるぎ高校ラグビー部又は徳島科学技術高校ラグビー部と帝京大学ラグビー部、筑波大学ラグビー部、東海大学ラグビー部の練習試合を行う。</li> <li>・徳島県が「2020年夏季オリンピック東京大会」の開催を視野に入れて、ドイツ代表選手団、イングランド代表選手団の国内合宿キャンプ地になる。</li> </ul>
23	<p>徳島県が「関西広域連合広域産業振興局」を通じて「水素燃料電池自動車」の普及促進に向けて、「水素燃料ステーション」の整備促進を推進する。</p>
24	<p>徳島県が「関西広域連合広域産業振興局」を通じて「徳島の中小企業力」を強化を行い、地方創生を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県の橋渡しで、県内の中小企業へ中小企業庁、中小企業基盤整備機構四国本部から高度産業人材（公認会計士、税理士、弁理士、技術士、中小企業診断士）の人材派遣を行う。</li> <li>・徳島県の橋渡しで、県内の中小企業と国内外の大手製造メーカーとの「ビジネス・マッチングフェア」の場を設ける。</li> <li>・徳島県の支援で、県内の中小企業が「技能検定制度」や「マイスター制度」に基づいて技能労働者の人材養成を図る。</li> <li>・徳島県の支援で、県内の公立の中学生や高校生が県内の中小企業での「インターン・シップ制度」における現場での就業体験を増やす。</li> </ul>
25	<p>徳島県の主催で「4Kデジタル・コンテンツ映像芸術祭」や「8Kデジタル・コンテンツ映像芸術祭」を神山町で開催して、世界各地から映像クリエイターを招待して「地方創生」に繋げる。</p>
26	<p>徳島県が「関西広域連合広域観光・文化振興局」を通じて、「徳島のアニメ・コンテンツ力」を強化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・徳島県が政府の「クール・ジャパン戦略」と連携する。</li> <li>・徳島県が中国、香港、台湾の若者を「とくしま★マチアソビ」に呼び込む。</li> <li>・徳島県が「とくしま★マチアソビ」で「アニソン・のど自慢大会」を開催する。</li> <li>・徳島県がラジオ関西（神戸市）の「青春ラジメニア」に「とくしま★マチアソビ」のPR行動を行う。</li> <li>・徳島県と京都精華大学のアニメーション学科と「とくしま★マチアソビ」で「産学連携プロジェクト」を行う。</li> <li>・徳島県が高校生を対象に「アニメ・甲子園」を開催する。</li> <li>→高知県の「まんが・甲子園」の開催の取り組み事例</li> </ul>

連番	意見要旨
27	<p>徳島県が「徳島の林業力」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徳島県が「徳島県立林業大学校」の開校を行う。 →京都府の「京都府立林業大学校」</li> <li>・ 徳島県が「みどりの雇用事業」（「林業架線作業主任者」や「林業技士」の人材確保）を推進する。</li> <li>・ 徳島県が「みどりの公共事業」（林道整備の促進や作業道整備の促進）を推進する。</li> <li>・ 徳島県が三好市と那賀町を岡山県真庭市の「バイオマスタウン・真庭」と同等の「バイオマスタウンづくり」を行う。</li> <li>・ 徳島県が流域ごとに「木材流通加工団地」を造成し、木材産業の集積化を推進する。</li> </ul>
28	<p>徳島県、徳島県立工業技術センター、四国経済産業局、中小企業基盤整備機構四国本部、徳島大学工学部が一体となって、「徳島発のベンチャー企業」を育成して地方創生に繋げる。</p>
29	<p>徳島県が小松島西高校の食物科が運営する高校生レストランの開店を支援して地方創生に繋げる。</p>
30	<p>徳島県が「徳島の女性力」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「国際女性教育振興会徳島県支部」への物心両面からの支援。</li> <li>・ 「ガールスカウト日本連盟徳島県支部」への物心両面からの支援。</li> <li>・ 女性の高度人材の登用（女性の産業医、女性の弁護士、女性の不動産鑑定士、女性の公認会計士、女性の税理士、女性の中小企業診断士、女性の一級建築士、女性の獣医師、女性の弁理士、女性の技術士）</li> <li>・ 県内の公立高校の女子生徒をお茶の水女子大学、奈良女子大学、日本女子大学、東京女子大学、津田塾大学への入学者を増やす。</li> </ul>
31	<p>徳島県が「統合型リゾート」（IR）を推進する。徳島県が身の丈に合った地域自然に溶け込むIR施設創りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ドイツの「バーデンバーデン・カジノ」、スイスの「グランカジノ・ルツェルン」</li> </ul>
32	<p>徳島県がICTの情報通信技術を活用して、インターネット上で「とくしまインターネット博覧会」を開催する。（英語・フランス語・ドイツ語・スペイン語・ポルトガル語・オランダ語・中国語）</p>
33	<p>徳島県が平成28年4月の徳島大学工学部から理工学部への改組を視野に入れて、航空宇宙産業、先端炭素繊維素材産業、ロボット産業（医療・看護・介護・防災・農業・家事）の産業振興を行う。</p> <p>徳島県が平成28年4月の徳島大学生物資源産業学部の開設を視野に入れて、健康バイオ産業等の新産業の創出を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「鳴門わかめ」から健康化粧品の新商品の開発を行う。</li> <li>・ 徳島県の橋渡しで、徳島大学生物資源産業学部に「ユーグレナ」（東京大学発のベンチャー企業）のサテライト・オフィスの開所を行う。</li> </ul>
34	<p>徳島県が「地産地消」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スーパー・キョーエイの「すきとく市」の全県下店舗での展開</li> <li>・ 農協直営や漁協直営の「産直市場」の増設</li> </ul>
35	<p>徳島県が徳島小松島港における「フェリーターミナル化」への整備促進を行う。</p> <p>→東京港フェリーターミナル、大阪南港フェリーターミナル</p> <p>徳島県が徳島小松島港に海外の大型クルーズ客船の誘致促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 徳島小松島港赤石埠頭に大型クルーズ客船専用埠頭の整備促進を行う。</li> </ul>
36	<p>徳島県が「2020年夏季オリンピック東京大会」の開催を視野に入れて、「とくしまマラソン」と「世界6大マラソン」（東京マラソン・ボストンマラソン・シカゴマラソン・ベルリンマラソン・ロンドンマラソン・ニューヨークシティマラソン）と連携して、マラソン交流人口の拡大を図る。</p>

連番	意見要旨
37	<p>徳島県が「徳島県全県光CATVネットワーク網構想」を土台に「J:COM・West」に要望して、徳島県内のCATV事業会社が「J:COM・West」のグループ傘下に入れるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・光ファイバー網における伝送路の光ケーブル化で更なる高速ブロードバンド環境の実現</li> <li>・「読書テレビ放送」の地上波デジタルテレビ放送の完全継続</li> <li>・BSデジタル放送の完全シースルパス方式の実施</li> <li>・各地域の「J:COM」への地域情報発信を行う。</li> <li>・「4K先進県・徳島」、「8K先進県・徳島」の推進</li> </ul>
38	<p>徳島県がICTの情報通信技術を活用して「遠隔地学校教育」の促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神山町と上勝町での取り組み</li> </ul> <p>徳島県がICTの情報通信技術を活用して「遠隔地医療」の促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県の「遠隔地医療システム」の「K-MIX」</li> </ul>
39	<p>徳島県が官民一体の連携のもとで、徳島県産の農林水産物の海外輸出の促進で徳島県が「世界の台所」を目指す。</p>
40	<p>徳島県が「徳島阿波おどり空港」に海外の格安航空会社の誘致促進を行い、グローバルな交流人口を増やす。</p>
41	<p>徳島県が農林水産業、宿泊業、交通運輸業、旅行業、飲食業を包括的に束ねる新たな事業を創出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→高知県の『土佐の「おきやく」』</li> </ul> <p>徳島県が郷土の名物料理を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→高知県の「皿鉢料理」</li> </ul>
42	<p>徳島県が徳島自動車道の「上板SA」にインフォメーション案内所を開設する。</p> <p>徳島県が県内の「道の駅」におけるハード面及びソフト面の整備促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内での「道の駅・スタンプラリー」の実施</li> <li>→愛媛県内子町の「内子フレッシュパークからり」、高知県梶原町の「ゆすはら」</li> </ul>
43	<p>徳島県が主体となって地域地場産業の振興を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・阿波藍、阿波手漉き和紙、阿波足袋、阿波しじら織り、阿波和傘等</li> </ul>
44	<p>「人の流れを徳島に呼び込むためには何が必要か」</p> <p>阿波踊りをもっとPRする。今年は大鳴門橋が開通して30周年の年でもあるので、渦の道などをもっとPRする。「渦フェスタ」はナイスな企画だと思う。</p>
45	<p>徳島県が「歴史文化道」で地方創生を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「阿波歴史文化道」～藍の道～</li> <li>・「祖谷歴史文化道」～平家伝説の道～</li> <li>・「阿波室戸歴史文化道」～海民の文化と空海修行の地～</li> <li>・「源義経ドリーム・ロード」</li> <li>・「ベートーヴェン・第九の道」</li> </ul>

連番	意見要旨
46	<p>徳島県が「マリニピア沖洲」を四国横断自動車道の徳島東ICの開業を視野に入れて「徳島の臨海副都心」（例・千葉幕張新都心）としての整備促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マリーナの設置</li> <li>・「海浜緑地公園」の設置</li> <li>・「都市型大型ショッピング・モール」の開店</li> <li>・「大江戸温泉物語」の都市型温泉施設の開業</li> <li>・「海の駅」又は「港の駅」の開設</li> </ul>

## 2. 「地方回帰」の加速

連番	意見要旨
47	<p>「人々が集まる・集めるキーワード」 昔は「衣・食・住」、今は「癒（「いやし」の空間）・職（「はたらく」業界）・衆（「つどう」世代）」。 「徳島」と云う地方県なりの魅力を作っていく事で、人の流れを活発化させ、県外流出に歯止めをかけると共に、人を呼び込む。そのためのキーワード「癒・職・衆」。</p>
48	<p>「人口流入について」 徳島県出身者が県外から戻ってくる、又は、徳島県出身者以外を徳島に呼び込むためには、魅力ある仕事づくりが必要である。意識能力の高い人（特に若者）を満たす仕事環境を充実させる必要がある。 また、大学進学等で人口流出しないよう徳島大学の魅力の底上げが必要である。</p>
49	<p>「天水のふるさと構想」 高円寺の阿波踊りは観客動員では徳島をしのぐ2日で100万人と言われている。関東には高円寺以外にも多くの阿波踊りが実施されており、すっかり地元根付いているところも少なくなく、全国で見ても北は北海道から南は九州まで連が存在している。これら県外の阿波踊り愛好家、天水達にとっては徳島はあこがれの地。一度は行って本場の踊りを見、そして踊ってみたいと多くの人が思っている。 そこで、この県外天水達に対し徳島県としての情報発信を強化し、徳島のサポーターになってもらうとともに、リピーターとして徳島に足を運んでもらい、魅力を感じてもらった方には長期滞在や将来的な移住を働きかけてはどうか。つまり阿波踊りを通じて徳島を第二のふるさとにするのである。</p> <p>具体的な施策は以下のようなもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Facebookなどで徳島の阿波踊り関連情報を中心とした情報発信を行う。内容的にはマニアックなぐらいでよいと思う。</li> <li>・県外で阿波踊りをしている子供たちを夏休みや冬休みに「阿波踊り留学生」として受け入れ、有名連の練習に参加の上、本番にも出演してもらう。また練習の合間に県内の観光名所、特に阿波踊りにゆかりのある場所に案内し徳島県を体系的に理解してもらう。子供のころに好印象を持ってもらうことで確実にサポーターとなってもらえる上に、子供の晴れ姿を見たい親世代も来県を促せる（一部徳島市で似たような取り組みはあるようだが、留学先、体験学習の場を市内に限定せず、より徳島の多くの魅力を体感してもらうことで差別化を図る）。</li> <li>・阿波踊り本番の宿泊施設のキャパシティ不足を補うため、県外踊り手を対象としたホームステイ制度を推奨し、受け入れ先家族への助成などを行う。これにより一般観光客の他県宿泊や日帰りによるロスを減らす。</li> <li>・前夜祭の規模を拡大し、県外天水を人気有料観覧席で優先的に躍らせる「阿波踊り全国大会」を創設する。</li> <li>・ふるさと納税者向け特典で、有料観覧席に専用席を設ける。</li> <li>・小規模でも県外で行われる阿波踊りについて、すべてに知事名で祝電を送るとともに、観光PRキット（ポスター、スタチなど）を送り、「天水のふるさと徳島」をPRする。</li> <li>・東京における阿波踊りのメッカでもある高円寺に県のアンテナショップを開設し、徳島情報を積極的に発信する。この時、阿波踊り会館の阿波踊りをライブ配信し、アンテナショップ店頭で大型モニターに映すことで集客のアップにもつなげる。 など。</li> </ul> <p>とにかく総花的なPRでは効果が薄いので、徳島の最大の「強み」である阿波踊りに特化した確実な支持拡大は一つの地域創生方策ではないかと考え、提案する。</p>
50	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」 国内のみならず、海外からの移住希望者にも優しい徳島。地域理解や外国語表記の推進、サミットやAPEC等の国際会議誘致。</p>

連番	意見要旨
51	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」            国機関の誘致と産学官の産業拠点整備            すでに全国区企業や健康科学センター、流通団地、高速道路、環状線が集積するブレインズパークに国機関や県内大学の学部の誘致、LED拠点施設の設置、工業技術センターの移転、SOHO事業の拡充により、先端産業集積地としての「四国学術研究文化都市」とする。</p>
52	<p>「人の流れを徳島に呼び込むためには何が必要か」            徳島を第2の故郷にしませんか。            国に働きかけ、ふるさと休暇というものを作ってもら。人手の少ない地域、農繁期等、また、消えかけている地域の伝統、技術、祭りなど、県外の人に積極的に呼びかけて、協力をしてもらう。自分の故郷でもいいし、他県でもよい、広く日本中に呼びかけ、ボランティアを募る。お礼に、徳島の名産等を送り、長くお付き合いを続ける。徳島の豊かな自然とスポーツを紹介して楽しんでもらう。</p>
53	<p>徳島県が平成28年4月の徳島大学理工学部と生物資源産業学部の開設による理学、工学、医学、歯学、薬学、生命科学、農学、林学、水産学等の幅広い分野での横断的な学術研究と教育の開始を視野に入れて徳島に新たな「技術革新」を起こす。            ・徳島大学理工学部と東京工業大学理学部及び工学部の学術研究連携と教育連携            ・徳島大学生物資源産業学部と東京工業大学生命理工学部の学術研究連携と教育連携</p>
54	<p>徳島県が最先端の高度医療機器産業の集積地を目指して「先端医療機器開発拠点」となる。            ・テルモの企業誘致を行う。            ・米ゼネラル・エレクトリック社の企業誘致を行う。            ・京都大学医学部附属病院先端医療機器開発・臨床研究センターのサテライトオフィスの誘致を行う。</p>
55	<p>徳島県がNPO法人「ふるさと回帰支援センター」の協力を得て、大都市から徳島への移住を推進する。</p>
56	<p>徳島県が平成28年4月の徳島大学生物資源産業学部の開設を視野に入れて、上勝町の株式会社いもどり内に徳島大学生物資源産業学部のサテライトオフィスを開設する。</p>
57	<p>徳島県が文部科学省の協力を得て「徳島大学の国際化」の後押しを行い、世界各地の名門大学の大学教員、大学生、大学院生を徳島大学に呼び込んで地方創生を図る。            ・カリフォルニア工科大学、ハーバード大学、オックスフォード大学、スタンフォード大学、マサチューセッツ工科大学、プリンストン大学、イエール大学、シカゴ大学、ケンブリッジ大学、北京大学等            徳島県が県内の公立高校の生徒の世界各地の名門大学への海外留学を支援する。</p>
58	<p>徳島県が「関西広域連合広域産業振興局」を通じて、京都系企業（京セラ、日本電産、島津製作所、村田製作所、オムロン等）を誘致する。            徳島県が「関西広域連合本部事務局」を通じて、徳島大学内に京都大学のサテライト・オフィスを誘致する。</p>
59	<p>徳島県が「日本のシンガポール」になる。            ・徳島県が「MICE」の開催誘致の促進を行う。            ・徳島県が海外からの富裕層の徳島への移住を推進する。            徳島県が資本・人・物・情報の経済資源に係る経済集積を集約して収益性と生産性を高める。</p>
60	<p>徳島県が総務省の「一県民間テレビ放送局全国四波化方式」の基本方針に基づいて、徳島県が在京のキーテレビ局のフジテレビ等直轄のテレビ局を誘致を行い、地域活性化を図る。            →愛媛県（RNBテレビ、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ）            →香川県（RSKテレビ、OHKテレビ、RNCテレビ、瀬戸内海テレビ、テレビせとうち）            →高知県（RKCテレビ、テレビ高知、高知さんさんテレビ）</p>

連番	意見要旨
61	徳島県が都会から移住を増やすために「移住促進交流センター」の整備促進を行う。 →高知市の「移住促進交流センター」の整備促進の取り組み
62	徳島県が三菱商事総合研究所、三井物産戦略研究所、住友商事総合研究所、丸紅経済研究所等の大手総合商社の研究所の協力を得て「地方創生」を行う。 ・徳島県が地方創生において、大手総合商社のマーケティング・マネジメントの手法を導入する。 ・徳島県が大手商社の研究所の「サテライト・オフィス」の誘致促進を行う。
63	徳島県が外務省を通じて日本国内の在日の海外領事館や海外大使館に徳島県のPR行動を行う。 徳島県が海外の資本・技術・人・情報を徳島県内に呼び込んで「地方創生」を図る。 ・具体的には、ドイツ連邦共和国ニーダーザクセン州のヴォルフスブルクからフォルクスワーゲン社のゴルフやポロの電気自動車生産製造工場を徳島県に企業立地を行う。 徳島県が「徳島小松島港」をオランダの「ロッテルダム港」のような世界的な国際貿易港にする。
64	徳島県が関西広域連合本部事務局を通じて、徳島県立工業技術センター内に「関西文化学術研究都市」の国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学のサテライト・オフィスを開設する。 ・徳島県立工業技術センターがレーザー半導体LEDの研究の推進を図る。
65	徳島県が関西広域連合本部事務局を通じて「関西文化学術研究都市」の（独）情報通信研究機構の研究所の徳島県への誘致を行う。
66	徳島県が「ICTサテライト・オフィス誘致促進事業」を土台にして「TOKUSHIMA・ICT村」を開設する。 ・アメリカの本場のシリコンバレーから米アップル、米グーグル、米ヤフー等の誘致を行う。
67	産業の活性化、企業誘致は積極的に取り組んでいると思うが、もっとインパクトの大きな動きが必要。 たとえば徳島空港隣接地（旧ターミナルがよかったのだが・・・）に県ゆかりの大塚HDの本社移転を提案する。なかなか本社から徒歩ないしは自動車でも数分のところから航空機に乗れる本社を持っている企業はないだろう。税制優遇などの条件は必要だが、かなりのインパクトはあると思う。 他にも県ゆかりの企業である日本ハムなどに本社移転の提案をすることは重要だと思う。可能性は少ないとは思いますが、動きを県内外にアピールすることが大切だと思う。 漁業も問題。徳島では営業が漁協単位。これは県単位で情報を一元化しないと大消費地への販売は不利。
68	戦略：生き残りの方策で情報分析による独創性の追求であり、一度使った戦略を2度使っても効果は半減。 1. 徳島県は独創性に乏しいことが、知名度の低さ、観光客の少なさになっている。知事を始め各市町村でトップセールスマンの意識のある首長はいない。地域創生のためには知事、市町村長は任期の半分は、県外でPRすること。そうすれば創生の大半が達成。 2. U・Iターン者といえば若者を求めるが、そうではなく、60歳から65歳の定年者のUターン、特に夫婦で徳島の人（友人・親戚がおり、不動産特に親宅・農地がある人）、定年者なら孫がいる、両親共稼ぎの孫を徳島の学校（ふるさとができる）に来れば一石二鳥。定年者はそれだけ地位と知識があり、地域に貢献できる。他の県は定年者に目をつけていない、早期に処置すべし。市町村の職員の給料を減らし定年Uターンを薄給で雇用。 3 農協に変わる新たに農業団体の設立（農協との競争心）
69	「県外から戻ってきたい徳島にするためには何が必要か」 私が県外から戻ってきて感じた事は交通が不便であることと若者向けのお店がないこと。都会にある人気のお店を1軒でも作ったら人の流れが少しでも変わってくると思う。

連番	意見要旨
70	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」  高齡化県民や運転免許を持たない都市部住民からの観光移住ビジネスに対応した公共交通整備</p> <p>1. 鉄道について  一部複線化によるスピードアップや便数増加、観光列車枠の確保。JR鳴門線の確保の為、鳴門駅～高速バス停間延伸、競艇や渡船利用者（航路変更による）、高速バス利用者の取り込み。徳島駅早期高架化実現と未整備状態のバリアフリー化の解消。アートを取り入れた駅舎や列車整備の推進。県内駅前のロータリー整備と特色ある駅前広場整備。バス路線の徳島駅一極化から県内各駅とバス路線の連絡推進。四国新幹線あるいはリニアモーター化導入を関西広域連合で推進。南海加太線から紀淡海峡鉄道化の推進。阿佐海岸鉄道の車両を全国に通用する観光列車化。</p> <p>2. バスについて  バス内のアナウンスの外国語対応推進。バス停の近代化による屋根付きで到着予想時刻表記の実施。小型化と便数増加、県内各駅への連絡化。全国対応のICカード導入。鉄道車両同様、バス内の地域特色ある車両整備推進。県内高速バス停（とりわけ徳島道）の利便向上整備と路線バスとの連絡化。</p> <p>3. 船について  全国唯一の鉄道連絡船の南海フェリーの維持。全フェリーのマリニピア集約とマリニピア客船ターミナル整備。長距離フェリーで四国に寄航していない航路の誘致。クルーズ船誘致とクルーズ専用ターミナル整備。元来、海洋県である徳島を県民や全国に知ってもらえる海洋資料館整備。韓国以外のアジアのコンテナ船誘致と、福岡、下関、神戸、大阪の例もあるように海外貨物フェリーの誘致。</p> <p>4. 航空便について  アジア諸国の航空会社の徳島空港乗り入れと便に合わせた関西、淡路島、四国向け高速バスの空港停車。旅客便だけでなく、貨物便の誘致。自衛隊との併用によるハンディの解消。国際線ターミナルの早期整備。</p>

### 3. 結婚・出産・子育ての希望実現

連番	意見要旨
71	<p>少子化に歯止めをかけるには、少し早い段階での出産が望まれるが、相手となる若年男性の非正規雇用化が深刻な社会問題となり少子化の主な原因の一つとなっている。そこで、徳島県で他県に先駆け、結婚を希望する男性の完全正規雇用化を促進する政策を行ってみたいかどうか。官公庁が率先して男性を正規雇用し、このような政策に前向きな企業を優遇する。徳島県には、経済的に安定した男性がたくさんいることを全国にアピールして、そのような男性と結婚したい女性を全国から受け入れ人口増をめざす。</p> <p>また、この20数年間の少子化対策が子供を保育所に預けて共働きするスタイルを推進する政策にかたよりにすぎたために、かえって女性の晩婚化や少子化を促進する結果になってしまったことを改め、徳島県ならではの農業や漁業、自営業といった職業形態で、家庭で子育てをしながら、仕事ができる環境の整備に力をいれてはどうか。東京に対抗する政策として、先見的な生活形態の専業主夫や主婦が子育てや農業や漁業、自営業に活躍できる土地であるとアピールしてみようか。</p>
72	<p>「徳島県内での就職や仕事に関して希望すること」  労働態様の多様化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所や幼稚園の送り迎えは、夫婦が交代でできるように、出社、退社時間の幅を広げ柔軟な出退勤。</li> <li>・ 農林漁業の繁忙期には、1から2週間程度の有給休暇を認める。後継者不足に歯止めをかける、労働態様の多様化をアピールする。</li> </ul>
73	<p>「結婚や出産、子育てに関して希望すること」  コミュニティセンターの充実</p> <p>老人の家なるものはあるが、若者の家はない。昔の青年団のようなものを作り、いろいろな職種の若者が集まれる場。老人の家は夜は若者の家とする。そこで、若者が自由に企画し、他の市町村とも交流し、いろいろな人たちが知り合えるようにする。結婚して子供ができたなら、そこで遊ばせたり、育児相談をしたりできるようにする。年寄とも交流をする。一つの建物を幾通りにも活用する。</p>
74	<p>徳島県が「地域医療」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 産婦人科医、小児科医等の専門医不足の解消を行う。</li> <li>・ 「自治医科大学地域医療学センター」との連携を行う。</li> <li>・ 「地域在宅医療」の推進を行う。</li> <li>・ 地域の「かかりつけ保険医」や「かかりつけ保険薬剤師」の普及促進を行う。</li> </ul>

連番	意見要旨
75	徳島県が徳島労働局・雇用均等室及び21世紀職業財団と連携して、県内の各事業所ごとに「事業所内保育施設」を増やす。
76	徳島県が各地域の小中学校を単位にして「幼保連携型認定こども園」を増やす。
77	徳島県が「直系家族世帯」（祖父母同居の三世同居）や「複合家族世帯」の施策を推進する。
78	徳島県が徳島労働局と連携して「育児介護休業休暇制度」や「子の看護休業休暇制度」の普及促進を図る。
79	「子育てに望むこと」 夫婦共に県外出身で、子どもを預けられる人もいないので、一時保育を利用しているが、認可外保育所は高くてなかなか利用できない。認可保育所をもっと増やして欲しい。または、認可外保育所に補助金を出すなどして、個人負担を減らしてほしい。 専業主婦をしているが、働こうと思っても、保育料は高いし、病気の時に預けられる人がいないので、そうしたことに理解のある職場を探すのは大変で働けない。 小さい子どもを持つ母親が働きやすい環境整備を早急に進めてほしい。

#### 4. 活力ある暮らしやすい地域づくり

連番	意見要旨
80	「魅力ある元気な地域をつくるために」 徳島の良さ、魅力を県民が再認識することが必要。県民が徳島に郷土愛や誇りを持たせ、地域のために各自ができることを実行するという“民”の力をより一層引き出せる。仕事があれば徳島で働きたいという若者が増える。
81	「魅力ある元気な地域をつくるために」 徳島県は全国平均よりも高齢化率が高いので、全国に先駆けて高齢者の活躍による元気なまちづくりを進める。行政はサポートやコーディネートを行う。元気高齢者の活躍の場を増やすことが、生きがいつくりにもつながる。
82	「宝の島：徳島の未来像」 徳島県が全国的に価値を見出されるために、交通インフラの充実と独自の魅力を確立する必要があると思う。そのためには、多彩な技術や知識等を持った方を招く必要がある。OBを含めて上勝、神山、美波町、穴喰辺りに外部の監修による有名別荘地をつくるのが有効だと思う。その別荘地に行くために交通網ができる。 また、県内外から徳島で就職し定住する気がある優秀な若者を集める機関をつくり、県政、まちづくりに参加してもらい、徳島の未来を考える機会をつくり、奨学金のように資金援助する。自然豊かな鳴門ウチノ海付近にカジノの建設もしくはアウトドアレジャーパークと宿泊施設をつくるなど、県外に徳島の名と場所を自然とアピールできるハードも必要である。徳島市、松茂、北島、藍住で景観と利便性、医療福祉を重視した生活圏をつくり、その他の地域は自然を生かした魅力を伸ばすことで交通網を張り巡らせる。まちづくりには外部の建築デザイナーなどの意見を取り入れ、一味違う田舎、都会にはない発想で取り組まないと東京には勝てない。八十八箇所付近に修行場をつくり、精神性、自分と向き合う四国という地を確立することに、是非取り組んでほしい。

連番	意見要旨
83	<p>少子化による地域の子ども同士のコミュニケーションの欠如、共に運動する仲間がいないことによる体力や運動習慣の低下、高齢者を中心とする生活習慣病や健康寿命の課題等、県全体の高齢化率が約30%になった徳島県には、教育上・健康上の課題が多い。各市町村では健康増進計画を策定し、学校教育においてもダンスの必修化等、地域全体で教育・文化・健康面の課題を改善する取組がなされている。</p> <p>徳島県においても、「阿波踊り」、「すだち君ダンス」等の普及を通じて、県の文化的アイデンティティの向上に取り組んでいるところであるが、私は、県全体だけでなく、そのような文化的な取組が、市町村にも必要であると考え。例えば、すべての市町村で、子どもから高齢者までが踊れる、また障がい者にも楽しんでいただける歌や踊りを作成し、住民全員が、祭り、運動会、敬老会、デイサービス等様々な場面で活用できるようにしてはどうか。</p> <p>もし、地域の特性を活かしたユニバーサルデザインの歌やダンスが普及すれば、県民の健康増進に繋がるだけでなく、異年齢間のコミュニケーションの活性化、地域の子どもは地域で育てる意識の醸成、さらには、人や地域を知ることによる郷土愛の醸成や町のアイデンティティの確立につながるのではないかと。</p> <p>徳島市内周辺はSOを初めとする企業誘致等でも成功しているが、西部や山間部は、経済的な活性化は難しいと考える。まずは、文化的な側面を活性化させ、魅力ある町、輝く町を作っていく。住民全体が明るい町、楽しい町を創る。それを、県全体や全国に発信することにより、地域のアイデンティティを創成する。すべての市町村にご当地ソングとご当地体操（ダンス・踊り）を！</p>
84	<p>徳島市に近い地域と現在住んでいる美馬市に格差を非常に感じる。特に高齢者が多く、高齢者の為の病院、施設、自営の方が多いため、仕事も結局は若い人向けもなく、どうしても不便で都市部に出たくなる。</p> <p>建物の老朽化が進み、各施設が寂れているし、空き家が多い。トイレも汚く、もっと、人が利用できるようにきれいにする、きれいに使える施設づくりを目指さないと、若い人は寄らないし、地元で生まれ育ってきた人にとっては当たり前で、私みたいに結婚して地方からやってきた人にとっては、とても不便を感じる。</p> <p>もっと、バスやタクシーの利用をうまく使うべきである。観光地、美味しい野菜・果物など、たくさんいいところがあり、もったいない。もっと、県・市、そして地元の企業が一体になって改革を進めないと、人の意識が変わらない。</p> <p>地元の人と触れ合うと、自分のところで収穫できた野菜など、趣味の範囲でしか売ってないんで、それじゃ、もったいないと思う。もっと、もっと、たくさんの人に買ってもらえるように環境づくりが大事だと思う。</p>
85	<p>「県版総合戦略づくりへの提案」</p> <p>糖尿病死亡率高いことは医療水準の高さを示すもので徳島県の誇り。糖尿病患者が年間一定数発生し、患者の治療が行き届き（しかし完治は望み薄い）、患者が長生きすると患者の総数は増大し死亡数も増大する。死亡率で見ると当然患者当りは下がるが、県人口（十万人）当たりの死亡率は高くなる。だから糖尿病対策を医師（臨床）に諮問するとますます死亡率は高くなる。糖尿病対策は他の生活習慣病対策と共に発生を抑える生活習慣の改善策に重点を置いて進めるべきだ。生活習慣病対策は睡眠、食事、運動の順に大切と言われるが広範でなかなか複雑である。それぞれの対策は臨床以外の医師をはじめ栄養学、体育の専門家に具体的行動計画の立案を諮問すべきだろう。ここでは一般人として生活習慣改善の一助となるであろう二つの提案をする。</p> <p>1. 休耕田を借り上げ、小分割し家庭菜園用に貸し出す事業をはじめ。</p> <p>規模は10㎡ぐらい10～20区画とし、小規模地域密着型とする。運営はNPOや地域の老人会（改革案を第2提案）とし、作付けも指導する。貸出先は興味を持つ人や暇人、自然に地域コミュニティができ、隣人の対話が生まれ、かつ体を動かすことにより健康維持、ぼけ防止につながる。</p> <p>2. 老人会を改組し、互助会にあらためる。</p> <p>65才以上を対象としているが、65才以上でも多くの人が仕事を持ったり、壮年会の方に入っている。また長年つとめたある老人会長は「ぴちぴちの人」と言い方は悪いが「よぼよぼの人」では活動しにくい、老人会青年部を作りたいとの感想であった。互助会にあらため、元気な人（Cグループ）、援助がいる人（Aグループ）、中間の人（Bグループ）などグループ化し、役割分担しながら、互助で内部の活性化を図り、外部活動を拡大する。例えば従来老人会の行っている子供の見守り活動などを担っていくほか、提案1の新しい活動に参加することを提案する。</p>
86	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」</p> <p>教育面について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 廃校を利用した全国私立大や専門学校を含む付属小中高校・大学・専門学校の誘致。とりわけ徳島市周辺に集中する現状から県西部、南部、県央部の駅前誘致。</li> <li>・ 既存大学や新規に誘致による芸術学部創設。美術、映像、アニメ、建築、音楽、舞踊、染色等の学部学科の創設で、県内活性化と四国における芸術の中心となる。</li> <li>・ コンパクトシティ化推進のため、高校の県内駅前への移設推進。</li> <li>・ 一向に進まない県内史跡の発掘、整備の加速化と県民が誇り持てる郷土史作成。県内の廃校や空官舎への芸術家招聘、私立ミュージアム誘致による芸術村の設置。県内の高校や大学に多くの海外留学生が入学してもらえるような宿舎整備。</li> </ul>

連番	意見要旨
87	<p>「今後も持続的に徳島が発展し、住みたいと思える徳島に」 山間漁村離島の再生 企業誘致の全県化と芸術家招聘事業の全県化。移住希望者の選択肢として最低限の利便性があげられることから、分かりやすい町づくり推進。県や自治体施設、バス停や駅舎、道の駅、公営住宅、学校の集中化整備によるコンパクトタウン化とそれに伴う商店や医療施設の誘致。地域住民に住むメリットのある発電事業とそれに伴う電力無料化。</p>
88	<p>「ずっと住み続けたい徳島、県外に出て戻ってきたい徳島にするために必要なこと」 郷土愛を育てる 小学生には、地域の人たちとゴミ拾いをしてもらう。ゴミは、捨てない、捨てさせない、子供たちがゴミを拾っていると大人も捨てにくい。ゴミの多い場所には子供たちに看板を作ってもらい、立ててもらう。 中学生には、地域の産業をサポートしてもらう。近辺にある、すだち、さつまいも、鳴門わかめ、コメ農家、野菜農家、林業、漁業など、高齢化が進み、多忙な時期にはサポートしてもらう。 高校生には、地方文化の伝統を守ってもらう。藍染め、大谷焼、竹細工、人形浄瑠璃、農村歌舞伎、秋祭りなど。 大学生には、小、中、高校生のリーダーになってもらう。自分たちの地域の産業や、伝統を守り、それを受け継いでいく人間を育てる。</p>
89	<p>徳島県が地域住民に対しての「郷土愛」、「地元愛」、「地域社会愛」における発揚の向上や高揚の向上への後押しで地方創生を図る。 ・「徳島ヴォルティス」と「徳島インディゴソックス」の地元チームを応援すること ・「地産地消」の推進</p>
90	<p>徳島県が「在宅医療」の充実強化を行う。 ・医師による「訪問診療」 ・看護師による「訪問看護」 ・薬剤師による「訪問薬事処方」 ・介護士による「訪問介護」</p>
91	<p>徳島県の主導で徳島県民一人一人が徳島の魅力を自信を持って「徳島を誇れるところ」、「徳島を人に語れるところ」と国内外に情報発信ができるようにする。 ・いわゆる「ふるさと自慢」や「お国自慢」が地域の広告宣伝になる。</p>

## 5. その他

連番	意見要旨
92	<p>「vs東京について」 第2の矢、第3の矢が打てていないのではないかと。タスクフォースも庁内公募制にし、真に意識能力の高いメンバーで組む方がいいと思う。</p>
93	<p>「マナー [manner] 行儀、作法を・・・」 交通弱者を守ろう労わろうとしない悪い風習 ・進行方向の信号が黄色になったにもかかわらず減速するどころか、あえて加速し交差点を通過しようとする姿勢。横断しようとしている歩行者など気にもしていない。 ・スクールゾーン(30キロ以下)であるにもかかわらず、50キロ前後で走行し横断歩道で横断の安全確認をしている児童、生徒が居ても走り抜けることのできる神経。 ・都会では見かけることはできないが、列車の4人掛けの座席を我が物顔で独り占めする乗客。 例をあげればきりが無い。このような仕付けは家庭内だけで養われるのか。住みよい街、よそから来た人が好きになる街を目指すにはその辺りから改革すべきではないか。それは5年掛けても容易ではないと思うが、県民性と片付けてしまうのではなく何らかの対策を望む。</p>

連番	意見要旨
94	<p>「県版総合戦略づくりへの健康に関する意見」</p> <p>1. 生活習慣病対策 睡眠、食事、運動の順に大切と言われる。それぞれ次のような活動が考えられる。</p> <p>①睡眠 昔よりよく言われる早寝早起きにこしたことはない。このためには早起きから始めると早寝が実現できる。朝のラジオ体操の会の復活やサマータイムの導入が望ましい。</p> <p>②食事 50年来減塩運動が進められているが効果は不十分のようだ。長野県のある町で食改さん（食事改善推進協議会をつくり、会活動を進める会員）が会員相互の味噌汁の塩分濃度を測定し合う活動で実績を上げている。事例に学ぶべきではないか。</p> <p>③運動 ラジオ体操はここにも当てはまる。耳や目や口、一つでも多く働かせながら有酸素運動が推奨されている。特定の地域で大学の先生の指導を受けて実践してみてもどうか。</p> <p>2. 指導者（栄養士や保健婦）に食事分析の普及を 正しい食事が叫ばれるが指導者が正しい食事を分かっていない。なぜかという正しい食事分析が現実には出来ないからである。30食品30栄養素とすると一食の分析に一日かかってしまう。解決のためには分析ソフトが必要だが、生活者向けの簡便なソフトはたくさんあるが、指導者向けの正確なソフトはたった一つしかないが市販されていない。指導者は正しそうな献立の普及に努めるだけでなく、食事分析して正しいことを確認しておく必要がある。食事分析ソフトを導入してはどうか。</p> <p>3. 毒性が問われている油脂（あぶら）について正しい認識を持つことが指導者に求められている</p> <p>①食品として今日でも「植物油」という言葉を聞くが、油の成分の多様性からこの名称は不相当として、平成7年植物油という名称を廃止し、大豆油、菜種油等個別名称で呼ぶことになっている。指導者の中に今なお植物油を使う人がいて情けない。</p> <p>②動物性脂肪を減らしてリノール酸の多い植物油をすすめた（すすめられた）ことはないか。リノール酸の多いべに花油は必須脂肪酸バランスを崩す悪い油として市場から抹殺されている。この必須脂肪酸バランスが食事分析されていないケースが多いのも問題。</p> <p>③動物性のバターより植物性のマーガリンと言われていたが、今は逆の評価になっている。マーガリンは植物油脂に水素添加反応で製造されるれっきとした化学品である。食品としても認められた唯一の化学品である。近年自然界には存在しない成分が含まれ安全性が問題になっている。</p> <p>④朝鮮戦争の頃、大豆が逼迫し当然大豆油が大不足、政府は菜種の作付けを奨励、菜種油を増産して難を逃れた。この菜種には問題（安全性）も多く、現在は品種改良したキャノーラ種から作られている。しかしなお問題を指摘する学術報告がある。</p> <p>⑤コレステロールの基準値をめぐって、病人に適する基準値と健康人の基準値の違いで議論が沸騰してる。基準値の違いはスタチン（コレステロールを下げる医薬品）を使うかどうかで、効能と副作用の大小が学術的に議論されている。</p> <p>これらの背景を理解したうえで、植物油脂の食事指導に統一見解を示し、生活者が迷わないようにして欲しい。</p>
95	<p>徳島県、兵庫県、神戸市が連携して「神戸・淡路・徳島」の「二大海峡交流圏」（明石海峡・鳴門海峡）を創設する。</p>
96	<p>徳島県が「関西広域連合本部事務局」を通じて「徳島阿波おどり空港」を「第二関西国際空港」としての位置づけを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際線専用ターミナルビルの開業（常設の出入国管理、税関、検疫の各施設の設置）</li> <li>・「徳島阿波おどり空港」の3,000m滑走路への延長（国際線専用機材のボーイング777-200ERの就航）</li> </ul>
97	<p>徳島県が「徳島の教育力」の強化を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神山町と上勝町でのICTの情報通信技術を活用してのテレビ会議システムによる双方向性オンライン塾の「遠隔地教育」の取り組み。</li> <li>・鳴門教育大学の大学の敷地内に鳴門教育大学附属高等学校を開校する。</li> <li>・徳島県立城南高等学校を東京都立日比谷高等学校、埼玉県立浦和高等学校、千葉県立千葉高等学校と同等の全国屈指の公立の進学高校にする。</li> <li>・徳島県が慶応義塾徳島中学校及び慶応義塾徳島高等学校を誘致する。 →明治8年7月に慶応義塾徳島分校が開校した。</li> <li>・鳴門高校、阿波高校、脇町高校に「理数科」の復活を行う。</li> <li>・徳島県立徳島北高等学校を徳島県立徳島国際高等学校にして「外国語教育」の強化を行う。</li> </ul>
98	<p>徳島県が「ふるさと納税」において「すだち阿波牛すきやき肉」を贈呈する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三重県桑名市の「ふるさと納税」は「松阪牛すきやき肉」</li> </ul>

連番	意見要旨
99	<p>徳島県が「徳島阿波おどり空港」、「徳島小松島港」、「徳島自動車道」の「空・海・陸」の総合高速交通体系の一体化や一元化で地域経済の活性化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県東讃地域（東かがわ市、さぬき市）や淡路地域（南あわじ市、洲本市）を徳島県東部圏域に引きつける。</li> <li>・「徳島小松島港」の更なる港湾整備の促進で環太平洋諸国（台湾、香港、シンガポール、アメリカ等）との国際貿易を推進する。</li> </ul>
100	<p>徳島県の「地方創生」のシンボルに「すだちくん」を起用する。</p>
101	<p>徳島県が「世界の理想郷」（ユートピア）、「世界の桃源郷」、「世界の楽園」になる。</p>
102	<p>徳島県が「鳴門教育大学・学園都市化構想」を支援する。</p>
103	<p>徳島県が「地方創生」とは、「人間力」（人づくり・教育）、「地域力」（地場産業・地域文化）の潜在能力の向上と定義づける。</p>
104	<p>徳島県が「地方創生」とは、労務管理上の観点から「人に役割分担を与えること」と定義づけを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 「出番」や「機会」を与える。</li> <li>(2) 適切な「職務評価」の実施。</li> <li>(3) 「自信」、「誇り」、「情熱」を持てるようにする。</li> </ol>
105	<p>徳島県が徳島自動車道の「松茂PA」の施設の整備促進を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的には「とくしま・とくとくターミナル」の徳島自動車道の「松茂PA」への丸ごと一括移転を行う。</li> </ul>
106	<p>徳島県が「徳島県のご当地ソング」で国内外に徳島県の知名度を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「四国三郎」（北島三郎）、「剣山」（北山たけし）、「鳴門海峡」（伍代夏子）、「うずしお」（坂本冬美）、「鳴門ちどり」（松山恵子）、「鳴門」（ベンチャーズ）</li> </ul> <p>徳島県が地域の「民謡」で地域再生を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「祖谷の粉ひき唄」、「鳴門小唄」（野口雨情作詞）</li> </ul>
107	<p>徳島県が県内の学校教育の向上を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳴門教育大学附属高等学校の開校</li> <li>・徳島県立城南高校を東京都立日比谷高等学校、埼玉県立浦和高等学校、千葉県立千葉高等学校と同等の全国屈指の公立の進学高校にする。</li> <li>・鳴門高校、阿波高校、脇町高校の理数科の復活</li> <li>・平成28年4月の徳島大学理工学部の改組を視野に入れて、県内の公立小学校の算数と理科、公立中学校の数学と理科、公立高校の数学・物理・化学・生物・地学の勉強の強化を行う。</li> <li>・平成28年4月の徳島大学理工学部の改組を視野に入れて、県内すべての公立学校でICT教育の強化を行う。</li> </ul>
108	<p>徳島県が四国横断自動車道の「徳島東IC」（予定）の開通を視野に入れて、「徳島小松島港」の『国際拠点港湾』への格上げを行い、国際的な物流・流通面での展開を図る。</p> <p>→和歌山下津港、堺泉北港、姫路港、倉敷水島港等</p>
109	<p>徳島県が地方創生について、愛媛県伊予西条市、島根県海士町、岩手県紫波町の地方創生の取り組みを見習う。</p>
110	<p>軽トラでの移動スーパー「とくし丸」の特集が、徳新やテレビで報道されていた。徳島発の民間の取組が県外でも受け入れられ、普及しつつある。育児情報誌「ワイヤーママ」も同様。こうした民間の取組に、行政としても連携・協力していければいいのではないかと思います。</p>

連番	意見要旨
111	<p>「徳島」に注目してもらえる情報の発信。徳島の認知度は体感だが、最下位クラスだと思う。</p> <p>阿波踊り、鳴門の渦潮は知っているも、「阿波」や「鳴門」イコール「徳島」とは感じられないようである。</p> <p>これといって有名な名所旧跡もないが、「伝説」や「謎」はたくさんある。これらをテレビ番組として提案できないだろうか。歴史学者、郷土史研究など知識人を集めて、討論などは面白いと思う。題材としては、「古代イスラエルの支族が剣山に住んでいた」「安徳天皇は祖谷で亡くなった」「古事記の舞台は徳島」「邪馬台国は徳島」などなど揚げるときりがない。とにかくマスメディアに徳島という地名を出してもらおう。</p>
112	<p>「県民が満足して徳島で暮らせるようにすること」</p> <p>徳島に移住してきた人も生活が楽しくないと定住したくないだろうし、楽しいとその噂は口コミで広がると思う。</p> <p>私は徳島で、釣りや山歩きをする。そこでは県外からのお客さんや転勤で来られた人によく会う。話をして感じることは、徳島で休日を過ごすことに関しての案内の少なさ。近くの防波堤で釣りなんかしていると、散歩に来た方が言うには情報がないので、釣りをしたいがどんな仕掛けでどこで何が釣れるのか分からないとのこと。釣り道具屋で聞けばいいのだろうが、釣り道具屋としてもへたな人に情報を伝えれば、駐車の問題などでトラブルになっても困るようだ。加えて、津田や赤石など近年になって入れなくなった釣り場も多くある。これらを開放してほしい。</p> <p>山歩きをしていても、登山口がわからないなどの意見をよく聞く。とにかく取っ掛かりにくいのが現状。たとえば、剣山スーパー林道、中津峰山など複数の市町村にまたがるところは多い。これは県としてその情報は一元化し地図の作成などできないものか。複数の市町村にまたがっていないところも果たして本気で紹介しているのか甚だ疑問。</p> <p>例えばある市町村のホームページにはある場所の観光案内があるが、この内容だけで不安なく目的地まで行ける人はいない。また、行ったところで駐車場もないし地図もない。市町村には任せておけない。</p> <p>とにかく県職員の皆様をお願いしたいのは、休日を徳島で過ごし、海に山に出かけてほしいということ。県民が徳島で過ごすことを素敵だと思えるかどうかは、皆さんにかかっている。</p>
113	<p>徳島県が宍喰沖に「海中展望塔」を設置する。</p> <p>→高知県の足摺海底館、和歌山県の串本海中展望塔</p>